

愛知県がんセンター中央病院

# 外来部は院内外の連携の要



作成者：外来部長 堀尾芳嗣

# 診療科としての外来部

外来部に所属する診療科は

脳外科 皮膚科 眼科 の3科で



夏目先生、大岡先生、横田先生、立川先生  
の4名の代務医師が勤務しています。

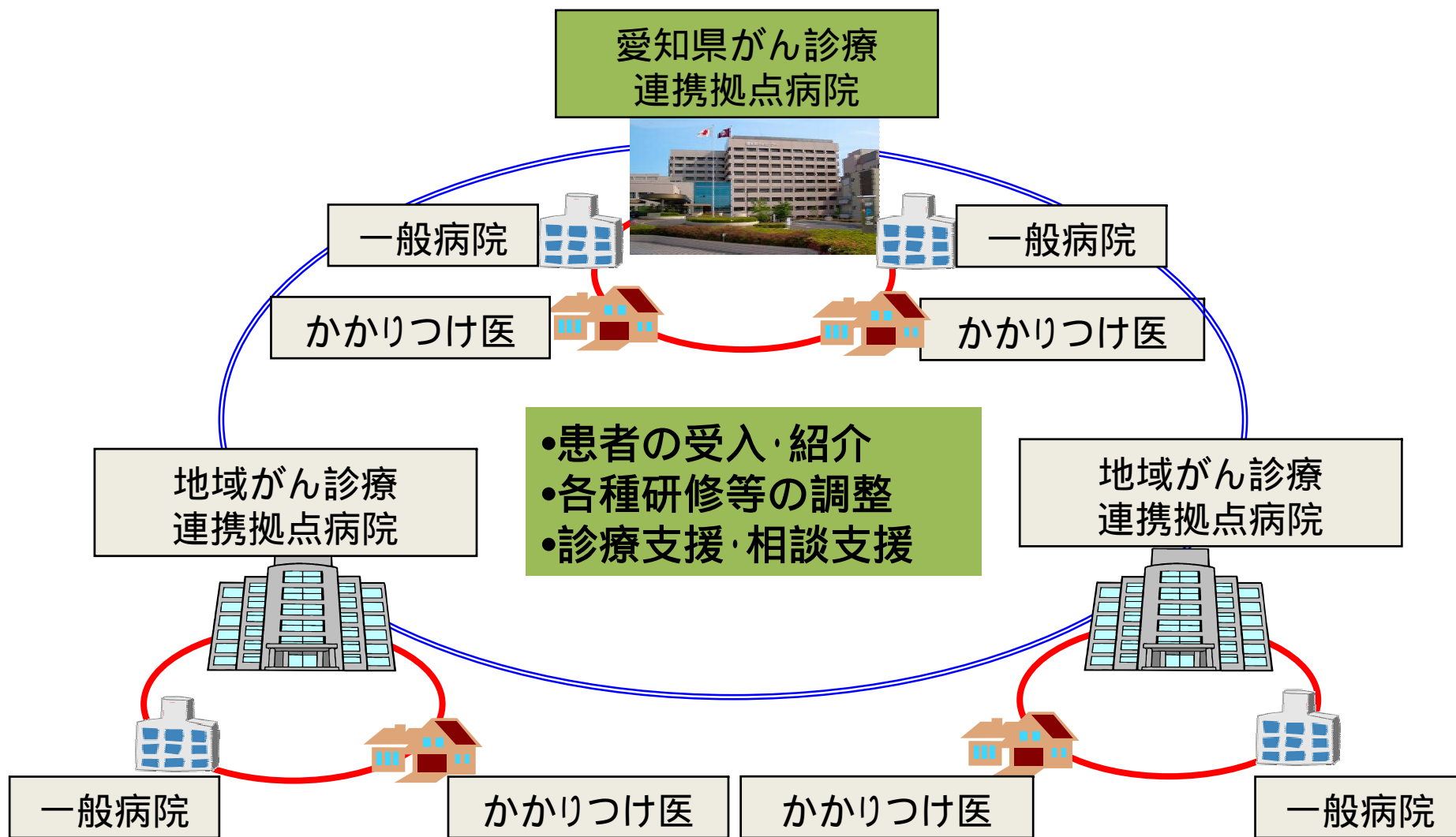
近い将来、糖尿病・内分泌内科や感染症内科の医師も  
代務で勤務してもらえるようにしたいと考えています。

# 外来部の役割

1. 患者さんにとっての外来診療の流れをより快適に
2. DPC(診断群分類別包括制度)の導入により増加する外来検査・外来治療への対応
3. かかりつけ開業医、地域の総合病院や地域がん診療連携拠点病院などとのシームレスな医療連携(退院調整を含む)
4. 外来・入院診療のスムーズな相互移行
5. 外来診療の質の向上
6. 高度化する医療に対する患者さんへの相談支援の強化
7. がん患者さんへの救急対応の強化

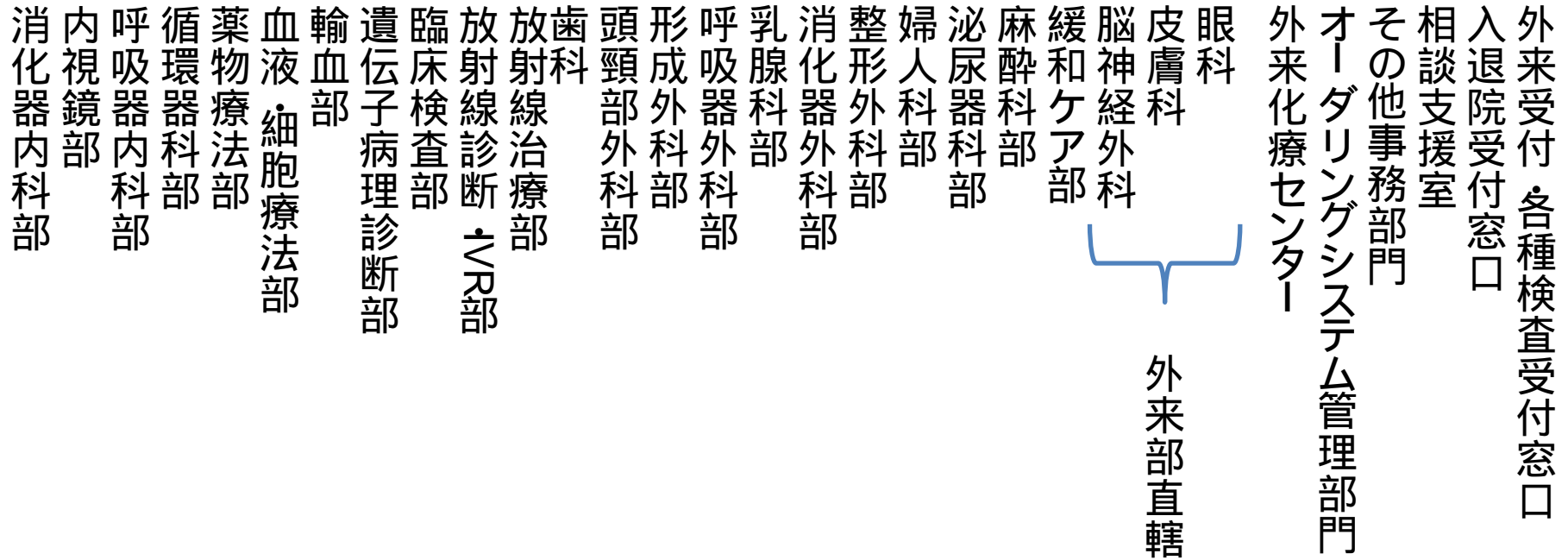
# 外来部の仕事

## 当院と外部医療機関との連携業務



地域がん診療拠点病院と一般病院とかかりつけ医との連携

# 外来部の仕事 院内調整業務



## 院内診療各科や各種窓口との調整

調整業務は案外大変です。

## 外来部の仕事

### すなわち

1. 医療連携をスムーズに行う
2. 当院の診療サービス機能を横断的に調整し、各診療科の機能を十二分にひきだす
3. 患者さんの肉体的・精神的苦痛が緩和される相談支援や救急システムの調整

# 外来受付



外来診療の入り口で最も重要な部署です。  
外国人の初診患者さんも迷うことなく診察を受けられるようにすることが将来的な目標です。

## 放射線診断・IVR部受付



CTやMRIや超音波検査なくしては医療は成り立たなくなっています。



## 臨床検査受付(採血など)



朝は大変混み合っています。外来診療医師の協力と高速処理の検査機器が重要です。

## 内視鏡・心電図受付



精度の高い内視鏡検査・治療の受付と  
生理検査受付をかねています。

# 外来化学療法センター



新化学療法センター予想図

2013年の夏頃には新しい外来化学療法センターが稼働する予定です。

## 3F 相談支援室での患者支援



がん医療や経済的、心理・社会的問題についての相談/支援を行っています

# 外来アトリウム



食事や休憩など自由に利用していただける吹き抜けで、開放感のある明るい空間です。

## アトリウムでの情報提供



毎週 月・水・金曜日14:00～16:00  
(祝日、12月29日～1月4日は除く)

# アトリウムでの ピア・サポート



がん治療体験者による相談会がボランティア活動として行われています。

(週に1回)



## アトリウムの彫刻と絵画



生生流転  
(山本眞輔作)



命  
(篠原猛史作)

がん患者さんへのメッセージを出しています。  
実物を見て感じ取って下さい。  
また、2F3Fの外来棟には写真パネルが展示されています。どれも素敵です。



# 外来部からみた愛知県がんセンター中央病院の魅力

## がん専門病院として無駄のない診療スタイル

具体的に列挙すると

- 1.症例数に比例したがん診療のノウハウの蓄積
- 2.病理や各種画像・内視鏡を含め診断能力の高い医師による短時間で正確な診断
- 3.他の病院ではほとんど存在しないIVR(インターベンショナルラジオロジー:放射線診断技術の治療的応用)部門の充実
- 4.熟練外科医の存在と短い手術時間、相対的に低い術後感染症発生率や合併症
- 5.常勤で経験が豊富な放射線治療医
- 6.全国でも有数の化学療法件数。有害事象に対する適切で早い対処
- 7.各診療科間の低い敷居
- 8.よく勉強しているメディカルスタッフ などです。

## 先端を走り続ける病院の外来部の将来的使命と課題

具体的に列挙すると

- 1.医療連携のさらなる充実
- 2.電子化する医療連携、画像・内視鏡診断を含めICT(情報通信技術)への対応
- 3.外来IVR(インターベンショナルラジオロジー:放射線診断技術の治療的応用)への対応
- 4.IVRや放射線治療や外来化学療法の外來ガイダンスの導入(ロボット手術導入時にも対応)
- 5.治験等に関する相談窓口の充実
- 6.がん診療における3次救急対応の確立

などを考えています。

文責:外来部長 堀尾芳嗣